

原始仏教(釈迦の思想)と、日本の大乘仏教

死生学研究会資料 ②2012/11/18

■原始仏教(前5C～前3C頃)…開祖・釈迦。修行により悟りを目指す教え(超越者は存在しない)。

四法印(しほういん)：釈迦が悟った普遍的真理(「一切皆苦」を除くと三法印、法印…真理)。

- ①全てのものは瞬間々々変化し続け、常なものは存在しない(諸行無常)。法…存在物
- ②全てのものは原因・条件(縁起)で生れ・死ぬ。主人公となる実体はない(諸法無我)。
- ③全てのものは常に変化し、自分の思い通りにはならない→人生は苦である(一切皆苦)。
- ④無常・無我を理解する。→苦は止み、安らかな心境・悟りに(涅槃寂靜)。

四聖諦(ししようたい)：釈迦が悟った縁起(原因・条件)の真理…具体的な悟りへの道筋。

- ①人生は、苦の連続(苦諦)。→②苦の原因は、煩惱の集まり(集諦)。→
- ③脱煩惱で苦が止むと、安らかな心境・悟り(滅諦)。→④悟りへの道は八正道で(道諦)。

八正道：釈迦が考えた悟りへの正しい修行方法…普通の日常生活で体験ができる。

- ①正しく見る(正見) ②正しく考える(正思) ③正しく考えた内容を念頭に置く(正念)。
- ④正しい心の集中(正定) ⑤正しい言葉(正語) ⑥正しい行動(正業) ⑦正しい生活(正命)。
- ⑧正しい努力(正精進)…。釈迦の遺言：もろもろの現象は移ろいゆく、怠らず努めるがよい。

*死の乗り越え方：常に物事の本質を捉え、自我に固執する見方を止め、世界を空(くう)と見よ。

*他に、自灯明・法灯明・無明・十二縁起・因縁生起・三宝・四苦八苦・五蘊・中道・涅槃…等。

■大乘仏教…インドで紀元前後(前1C～後4C)に原始仏教の後に生れた。空(くう)の思想と、自利(悟り)は利他(救済)の実践で得られる…超越者(仏陀)が存在する宗教。

「日本の大乘仏教」…538年朝鮮から大乘仏教が日本に伝わる。聖徳太子(574年～)は仏教・儒教の理念を基礎にして国政改革を行った。→以下は主な日本の大乘仏教、

最澄(767～822年)：38歳で入唐し天台の奥義と密教・禅等を学び帰国、比叡山延暦寺を(天台宗) 建て天台宗を開く。円・密・禅・戒の教えを融合した総合仏教を目指した。

空海(774～835年)：30歳で、最澄と同じ遣唐使船に乗り入唐し、唐の僧・恵果(けいか) (真言宗) から密教を伝授され帰国、高野山金剛峰寺を建て真言宗(即身成仏)を開く。

法然(1133～1212年)：15歳で比叡山に入り、その後下山し43歳のとき浄土の道を悟(浄土宗) り、専修念仏を唱え浄土宗を開く。「南無阿弥陀仏」と称えれば極楽浄土へ。

親鸞(1173～1262年)：9歳で出家、比叡山で修行。29歳で下山し、法然の弟子となる。(浄土真宗) 35歳で法然と共に流罪となり、越後に流される。その後関東で布教し「教行信証」を著す。63歳で帰京し90歳で没。阿弥陀仏信仰を持った瞬間に救われる。

栄西(1141～1215年)：初め比叡山で天台宗を学び47歳で再度入宋し、臨済禅を学び帰(臨済宗) 国。禅宗布教に努めたが他宗の妨害や圧迫を受け、後に鎌倉に赴き北条政子・源頼家の支持を得た。坐禅と公案により悟りに至る…自力の宗教。75歳で没。

道元(1200～1253年)：13歳で比叡山に入り天台宗を学ぶ。23歳のとき入宋し、天童(曹洞宗) 山で如浄禅師に師事し悟りに至る。27歳で帰国し曹洞宗を開く。44歳のとき越前永平寺を建て、只管打坐(坐禅そのものが悟り)、身心脱落を説く自力の宗教。

日蓮(1222～1282年)：12歳で出家し比叡山等で学び、32歳で故郷に帰り「南無妙法(日蓮宗) 蓮華經」を称える日蓮宗を開く。佐渡に流罪後身延山で弟子育成等、61歳で没。

参考資料：死生学研究会資料 ②日本人の死生観のルーツ、④空(くう)について。

©2012 死生学研究会

参考文献：日本の宗教(田中治郎著・日本文芸社)、ブッダのことは(スッタニパータ、中村元訳・岩波文庫)

仏教(渡辺照宏著・岩波新書)、犀の角たち(佐々木閑著・大蔵出版)、日々は修行(佐々木閑著・ちくま新書)

魂は千の風になりますか？(ひろさちや著・幻冬舎)、死に直面したあなたに(内田 誠著・死生学研究会)

死生学研究会
Thanatology Research Center

TEL 042-624-1355